

令和 7 年度事業報告書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

学校法人 北 上 学 園

1. 設置する学校・学科等

専修大学北上高等学校

普通科・グローバルビジネス科・メカニックエンジニアリング科(自動車科)

専修大学北上福祉教育専門学校

保育科・福祉介護科

認定こども園 専修大学北上幼稚園

0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 理事会・評議員会の構成 (令和8年3月31日現在)

・理事定数 11人 以上 15人 以内

現在数 15人 (内、理事長1、常勤理事4)

選任区分 設置する学校・園の長うちから評議員会で選任

学識経験者等のうちから評議員会で選任

学校法人専修大学より派遣された者から評議員会で選任

その他評議員会において選任

・監事定数 2人 以上 3人 以内

現在数 3人

選任区分 評議員会の決議によって選任

・評議員定数 13人 以上 17人 以内

現在数 17人

選任区分 設置する学校の卒業生で年齢25歳以上の者から評議員会で選任

法人の職員のうちから評議員会で選任

学識経験者等のうちから理事会で選任

学校法人専修大学より派遣された者から評議員会で選任

教職員数

令和7年5月1日現在

	教 員 数						職 員 数							合 計
	本 務					非常勤 講師	本 務					非常勤 職員		
	専任 教諭	特別 講師	特別 教諭	常勤 講師	小計		事務長	専任 職員	常勤 職員	専任 技職	常勤 技職		小計	
高等学校	48	1	3	5	57	11	1	7	1	2	1	12	3	83
専門学校	10	2		1	13	24	※(1)	¹ ※(2)				1	1	39
こども園	19			1	20	15	※(1)	1				1	4	40
計	77	3	3	7	90	50	1	9	1	2		14	8	162

※特別講師は、再任用者のことを指す

※特別教諭は、定年者を含み、校(園)長の申し出により理事長が必要と認めたもの

※高等学校専任職員1名は、専門学校事務長兼務

※高等学校専任職員2名は、専門学校事務職員兼務

※高等学校事務長は、こども園事務長兼務

令和7年度 北上学園事業報告の評価

目標値の考え方

各校の事業計画の目標について、年度末の実績値に応じて、「A・B・C」の3段階で示します。

達成率	
A	おおむね目標値どおりの場合 (目標値に対して110%未満、90%以上の実績値を達成した場合)
B	達成している部分もあるが、不十分である場合 (目標値の90%未満の実績値の場合)
C	目標値を下回った場合(全く達成していない) (目標値の50%未満の実績値の場合)

令和7年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【専修大学北上高等学校】

入学定員（300名）の充足を第一の目的に据え、そのために、生徒・保護者・教職員の満足度を高め、地域に開かれた学校として、社会に貢献する有為な人材を育てる教育を行う。

令和8年度入学生

〔全日制課程〕 316名／300名 充足率105.3%

普通科 204名／185名（充足率110.3%）

グローバルビジネス科 76名／80名（充足率95.0%）

メカニックエンジニアリング科 36名／35名（充足率102.9%）

〔通信制課程〕 13名／25名 充足率52%

普通科 通学コース11名、通信コース2名

1 教育内容の充実について

達成度 B

「未来を創る学び」の実現に向けて、普通科各専攻、グローバルビジネス科、メカニックエンジニアリング科とも、順調に成果を収めていると感じている。この学びの改革には、これでいいという終わりはなく、さらに、継続して努力と工夫を重ねる必要があり、より一層の充実を図るべく、外部人材も活用しながら、地域に開かれた教育課程、地域に開かれた学校として、今後も学びの充実を図りたい。

（1）建学の精神を柱とした道徳教育を充実させ、豊かな人間性を身につける。

建学の精神である「報恩奉仕」を意識した教育活動を行うべく、専北ループリックからシラバスに反映させるとともに、映画「学校をつくろう」鑑賞会を1学年全員で実施した。日々のHR活動の充実を図り、規範意識・ルール・マナーの徹底等を行った。良い行いも積極的に紹介しながら、豊かな人間性を身につけさせる指導を実践した。

（2）家庭や関係機関と連携しながら、規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。

学年会機能を活かしながら、SSWrやSCとも連携し、ケース会議を定期的に開催して、様々な課題解決を図った。毎朝のHRには複数で対応し、担任・副担任そして学年会の連携により指導を実践し、朝学習や連絡事項の徹底を図った。また、夏と冬の三者面談では遠隔地からはリモートも可能とし、利便性を図るとともに、適宜生徒や保護者と面談を推奨し行うなど、情報共有に努めた。

（3）スクールミッション・スクールポリシーに沿った、適切な学習を推進する。

シラバスに、建学の精神、校訓をもとにしたループリックに沿っての教育活動を表し生徒に年度始めや折々に示しながら学習活動を実践した。生徒一人ひとりの生きる力を育むとともに、未来を創る学びの実践に努めた。

（4）学科・コース・専攻の特性を生かした、特色ある教育活動の実践と検証を図る。

DXハイスクール指定2年目のコンソーシアムを発展させ、「未来を創る学び推進委員会」を全校各科・コース・専攻を対象として2回開催し、各学科・専攻のメンター及び関係委員の参画により、向上に向けてアドバイスをいただき改善を図った。学びの改革は、進路実績や資格取得でも成果を収めているが、「指導と評価の一体化」を課題ととらえ、生徒の可能性を発揮させることができるよう、一層の改善に取り組むたい。

（5）通信制課程開設にあたり、生徒と向き合いながら「専北らしい通信制」を構築していく。

通信制の開設を無事に果たし、スモールスタートであったが、生徒一人ひとりを大切にしたい、本校ならではの通信制課程を展開することができた。残念ながら進路変更する生徒が出たが、他校からの転学生も迎え、年度当初より人数を増やすことができた。今後も認知度を上げ、発展させていきたい。

(6) 進路指導体制・システムを充実させ、国公立大学・難関大学等生徒の希望実現に努める。

新たな進路指導部、キャリアセンターも3年目となり、新しい進路支援システムやキャリアサポート室、ラーニングコモンズ等、新校舎を機能的に活用した、進路指導体制を構築しつつある。生徒一人ひとりに寄り添った、進路開拓、進路支援やその希望を叶えるための全校一丸となった体制作りについてはまだまだ課題もあると感じているがよりよくしていきたい。

(7) 専北塾の充実を図り、多様な能力の開発と個性を伸ばす活躍・経験の場を設定する。

専北塾の充実を図るため、全校としての取り組みにすることと外部人材も多数活用しながら内容を充実することができた。アカデミーの生徒に対しても、朝を中心に講座を設け積極的に取り組んだ。自主性を重んじる中で生徒の参加率と教員の講座開講数を増やすことは継続する課題と考える。進学のみならず生徒の興味関心に寄り添ったプログラムを提供していきたい。

(8) ICT環境の充実を図り、新校舎を生かした新たな学びを実現し、教育の質の向上を図る。

文部科学省のDXハイスクールに2年目継続採択されたことにより、一層ICTを活用した教育実践を展開することができた。一人一台端末導入3年目の完成年度として、問題なく授業等に活用することができている。新校舎の特性を生かした学びの発表会や探究科Socio発表会も実施することができ、次年度も継続申請し、より環境整備に努めたい。

(9) 自らの学びをデザインし、キャリアを自分で切り拓ける、探究型学習を充実する。

本校総合的な探究の時間である「SENTAN」については、全職員によるゼミの展開や、生徒の個人的な鳥組みも出てきており、活動を事業として始めたり、プログラミングの講習会を自ら主催したり、生徒の主体的な活動に発展している。教員も、異教科とのコラボ授業にチャレンジし、オープンスクール等で好評を博した。

(10) 教育相談体制の充実を図り、支援が必要な生徒や学校不適應への適切な対応を行う。

スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSWr)をフル活用し、組織的に対応し、生徒や保護者の困り感に寄り添いながら、課題解決に当たった。学年会から定期的に情報を集約し、ほのぼの担当教員を中心に、ケース会議を開催する中で、関係機関との連携も図り対応した。

(11) 学校評価・授業評価の実施結果を活用し、改善とより一層の充実を図る。

授業評価は、全校生徒に対しBLENDを使用し、全教科の授業評価のアンケートを実施した。集約後は、職員が授業改善に活用したほか、校長が教員の指導にも利用した。学校評価についても同様にBLENDで全保護者に対しアンケートを実施し、集計後保護者に公表した。

(別紙参照) 調査項目を例年と若干変えた部分もあり比較がないものもあるが、特に評価の振るわない部分、そして教員との意識のずれが見られる点については改善を図ります。

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

職員の資質・能力の向上に向けて、月一回の定期的な研修会を計画的に実施することにより、「生徒とともに学び続け、成長し続ける教職員集団」となるべく取り組んだ。教員として、日常的に自ら研修に取り組む体制を作り、不断の努力で実践するとともに、年齢・職歴に応じた研修体制の構築に向けて一層取り組みを進めたい。

(1) 授業を第一に、指導と評価の一体化を図るため、授業改善には不断の努力で取り組む。

普通科DLコースで実施している、単元評価について、今後全校での実施に向けて、何度も研修を重ねるとともに、そのための単元シラバスの改定、評価方法等について、各教科での打ち合わせにより、実現に向けて準備した。自分の授業内にとどまらず、基礎力診断テスト等全国基準で指導するよう取り組んだ。定例の研修会でも、授業改善、業務改善に向けて、ICTの活用を始め、数多くのテーマで実践するとともに職員同士の知見の共有を推奨した。

- (2) より多様な生徒との関わりが増えることを一人ひとりが前向きに受け止め、生徒の観察、速やかな対応ときめ細やかな支援を行う。

複数教員によるHRは定着しており、毎朝複数の目で生徒を観察・指導している。定期的な面談の推奨とともに日常的アセスメントにより、学年会での情報共有、ケース会議を経て、SCやSSWRとの連携や必要であれば学習支援員を授業で活用する仕組みであったが、学習支援員の活用はなく、課題は残っている。保健室利用者は減少傾向にあり、良い状況である。

- (3) 教員の資質・能力と教育の質の向上を図るため、定例の研修会を充実させる。

定例の研修会は、1年を見通して計画的に、月1回職員会議時に行うことができた。内容も時機にたらし、中身の充実を図っている。特に、単元シラバスの作成にあたっては、共通認識のもと、学びを深めることができた。いつでもオンデマンドで研修できるFind!アクティブラーナーの活用も推奨しており、自らの職歴にあった研修を勧めるなど、一層計画的研修体制の構築に取り組みたい。

- (4) 人事評価制度を活用し、職歴に応じて自己啓発に努める環境を整える。

人事評価は、定期昇給に実効性あるものとして実施することができたが、実質的には基本全員昇給であるため、より実効性のある仕組みづくりが必要と考える。自己申告シートの内容の再検討や評価基準の見直し等、改善が必要と考えます。管理職との面接は、職員と相互理解を図るうえで有効である。職員も考える機会を得て、自己啓発に努めるいい機会となっている。

- (5) 校内・校外での必要な研修への参加を促し、成果を伝達して共有する。

ハイスクールコンソーシアムという全国組織に参画し、九州の福岡女子商業高校へ複数職員を1週間2回派遣することができた。その様子は日々の報告と職員会議で共有し有意義であった。また、国内留学としてその2年生を受け入れ、学びの発表会に参加した。私学協会主催の県の研修会にも積極的な参加を促した。その他、希望による校外研修への参加も極力認めた。研修後は、研修内容の共有を図った。

- (6) コンプライアンス（法令遵守）を推進するとともに、働き方改革にも取り組む。

コンプライアンスについては、毎月定例職員会議等で校長からの講話を実施し、具体例を話して法令遵守に努めた。しかし、年度途中で退職せざるを得ない職員が出たことは誠に遺憾であった。働き方改革については、校務のICT化の一層の推進に向けて、DXアドバイザーを有効に活用し、研修を設けるなど、校務の効率化・新たな働き方改革を図ることができた。

3 連携強化について（系列校、地域社会、関係機関）

達成度 A

系列校との連携については、専修大学・石巻専修大学及び学内専門学校・こども園の多大なご援助・ご協力により充実した、魅力ある取り組みを実施することができた。さらに、一層の工夫を図り、連携を強化していきたい。また、北上市と学園による連携協定により、様々連携を取りながら魅力ある諸事業を実践することができた。

- (1) 系列校との連携・交流により、上級学校への進学動機付けと意欲を育てる。

◇専修大学高大連携

- ①専修大学・系列学校合同説明会（1・2年全員6月）
- ②首都圏大学見学会（10月）
- ③専修大学フェスティバル参加（10月）
- ④専修大学エクステンションセンター主催模擬法廷参加（11月）
- ⑤専修大学保護者見学会（関東地区保護者）（11月）
- ⑥社会知性フォーラム（12月）
- ⑦「ニュース専修」生徒・保護者・教職員配信（月1）

- ◇専修大学・系列学校合同説明会
 - ①専修系列説明会（6月）
 - ②専修大学先輩と語る会（本校実施）（8月）
 - ③SENSHUフェア（リモート2年対象）（9月）
 - ④専修大学フェスティバル（10月）
- ◇北上福祉教育専門学校との連携事業
 - ①高専連携会議（5月・12月実施）
 - ②学校説明会（生徒向け・KTSにて）（6月実施）
 - ③新任教員向け学校説明会（6月実施）
 - ④保育・福祉介護系がイグナス（生徒・保護者）（6・3月実施）
 - ⑤「専門学校フェス」でのブース設置（3月実施）

（2）高大・高専・高幼連携事業を通して、特色ある学びを充実させ、豊かな心の育成を行う。

◇石巻専修大学高大連携接続科目授業

普通科学問探究専攻2年77名受講 各学部教授による4講座を受講（6/18、9/12、12/2、2/9）

他の連携 ①石巻専修大学 グローカルビジネス科1・2年対象160名（5/13実施）

「簿記」講話 平澤 哲 氏

②石巻専修大学見学・体験会（1年290名、9/11）

③石巻専修大学で講義受講とゼミナール参加 普通科含む53名参加（1/13）

（グローカルビジネス科2年生＝簿記グレード上位者29名、普通科24名）

④高大連携実習高大連携実習（機械工作、旋盤機械講）

ME科1年生32名（9/29）、ME科2年生36名（2/19～20）

⑤連携出前授業 グローカルビジネス科1年生 石巻専修大学 田村真介准教授

「出づるを制して入るを量る」（簿記）（2/7）

⑥北上幼稚園食育交流（4回実施＝6月／11月）

⑦北上幼稚園児との英会話教室

（5～3月 年長・年中クラス各6回、年少クラス4回 計16回）

⑧北上幼稚園とのサッカー教室（5～6月 計4回実施）

⑨北上幼稚園との茶道交流（2月）

（3）北上市との提携による、地域社会・関係機関との連携を通して、人材育成に努める。

北上市との「まちなかキャンパスにおける人材育成に関する連携協定」により、普通科情報ビジネス専攻では、市内稲瀬地区と持続可能な米づくりを推進するプロジェクト「コメプロ」を実践したほか、ランフェスの企画を本校生徒が主体的に取り組み開催することができた。また、普通科保育幼児教育専攻では、市と連携して認知症カフェを開催するなど、強い結びつきの中、連携を取って種々活動した。さらに、2月に北上市まちづくり部主催のマッチングフェアにて生徒が探究の取り組みを発表し、参加企業・団体から好評を博した。

（4）SVきたかみとの連携により部活動改革・働き方改革に繋がる取り組みにする。

SVきたかみは5年目を迎え、TOTO補助事業として最後を迎えます。学内部活動との連携により、種目数、対象世代等も広がりを見せているが、全ての連携には至っていない。次年度の間に自走できる組織となるようにしていきたい。今後も様々地域貢献に寄与する取り組みを発信していきたい。

4 広報活動の強化について

達成度 B

学校HPの運用は昨年度よりは情報発信できたが、改善の余地はまだ多分にある。SNSの発信は各部により発信されているが、組織的にとは言い難い。引き続き充実を図るために方法を模索したい。入試やOSでのWEB出願・申込みも、定着してきたが、さらに適切に運用できるように努めていきたい。

- （1）全日制課程各科・コース・専攻と通信制課程の学びの特徴をより際立たせ、中学生とその保護者・中学校及び学習塾等への様々な広報活動を展開する。

- ①中学校との引きつぎ・情報交換（メール）
- ②相談会（1回実施＝29名／プレゼン対策24名）
- ③中学校高校説明会へ参加27校（前年より2校減）入試事務説明会（11月実施）7校
- ④和賀地区中学校進路指導研究会（中学校教諭対象）講師として派遣
- ⑤夏の特別企画『親子で考える高校入試』（10月実施：学習塾主催）へ参加
- ⑥学校案内パンフレット（カラー35ページ＝7000部作製）
- ⑦生徒募集要項4000部作製

（2）HP・SNSの充実に努め、教育内容及び実践活動内容を広く世間に知らせる。

ホームページの運用については、改善に向けてDX推進部を中心に対応したが、思ったような情報発信に至っていない。各部活動等のSNSでの発信は積極的に行われているが、学校として、組織的という観点では、今後も課題である。より多くの人に見ていただけるように工夫して情報発信していきたい。

（3）まちなかキャンパスを核とした地域に開いた様々な活動や、学校外での地域活動に積極的に取り組み、地域への貢献と広報の役割を果たす。

各所からのボランティア要請には、BLENDを通じて、全校に呼びかけながらできるだけ応えた。探究部を中心に、部活動単位でも様々なボランティア活動への取り組みを推奨しており、北上市と連携した、未来創造会議への参画や北上市市民ライターへ積極的に参加する生徒もあり、引き続き、地域貢献と広報の役割を果たすためより一層活動の活発化に努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B

大きな学校事故やいじめの重大事態に繋がる事案はないが、対応に苦慮した問題行動や対人関係トラブルが複数発生した。生徒の安全・安心については、不断の努力で臨み、速やかに組織的な対応を心がけたが、今以上に早期発見・早期解決を図るように努めたい。

（1）より多様な生徒が集うことから、さらなる多様性の尊重と、生徒一人ひとりが相互に認め合い、助け合う姿勢の醸成を図る。

スクールカウンセラーによる、グループエンカウンターを春だけではなく、夏休み明けにも実施することで、より安全・安心な学級作りに努めた。Q-U検査を活用した、メンタリングも実施して、クラス内のトラブルの未然防止に努めた。

（2）いじめや体罰・暴言の未然防止と生活実態調査に基づく適切な対応に努める。

いじめ・生活アンケートを年3回の実施し、組織的に対応することで、いじめの早期発見、早期解決に努めた。地域課題となっている、問題行動の発生では、関係機関と連携を取り、適切に対処することができた。いじめ事案に対しても、校内にとどまらず、関係各所と連携を図り、早期に組織的に対応することで大事に至ることがないように対処した。

6 まちなかキャンパスの魅力を十分に生かし、課内・課外双方で開かれた学びを実践します。

さらに、通信制課程開設初年度であることから、一人ひとりの個性と向き合いながら本校らしい通信制課程のあり方及び体制を整備し、さらなる地域からの理解醸成に努めます。

達成度 A

新校舎を活用し、地域と連携した催しを複数実施することができた。これからも地域に開かれた学校として、地域への貢献と生徒の学習・成長の場としての位置づけのもと、様々な連携事業に取り組んでいきたい。

通信制課程開設初年度として、無事に開講することができた。本当のスモールスタートとなったが、所期の目的通りの教育活動ができていると思う。2年目以降も地域からの理解を得て発展させていきたい。

7 スポーツ・文化・学術の主な活動・成果

(1) 硬式野球部	第72回春季東北地区高等学校野球岩手県大会	第3位
	第107回全国高等学校野球選手権岩手大会	ベスト8
	第78回秋季東北地区高等学校野球岩手県大会	ベスト8
(2) 軟式野球部	第77回岩手県高等学校総合体育大会軟式野球競技	優勝
	第16回春季東北地区高等学校軟式野球大会	優勝
	第70回全国高等学校軟式野球選手権岩手大会	優勝
	第70回全国高等学校軟式野球選手権東北大会	優勝
	第70回全国高等学校軟式野球選手権大会	ベスト4
	第79回国民スポーツ大会高等学校野球競技	ベスト8
	第64回岩手県高等学校軟式野球新人大会	優勝
	第37回秋季東北地区高等学校軟式野球大会	優勝
(3) 卓球部	県高校総体県大会(男子団体)	優勝(13年連続30度目)
	東北高校選手権大会(男子団体)	優勝(2年連続2回目)
	国民スポーツ大会 東北ブロック少年男子	優勝(2年連続3回目)
	国民スポーツ大会少年男子	準優勝(岩手県史上初)
	県高校新人大会(男子団体)	優勝(22年連続39度目)
	東北選抜大会	優勝(2年連続2回目)
(4) 陸上部	高総体 男子200m	3位
	男子110mH	1位(全国出場)
	女子100m・200m	2位
	女子400mR	2位
	県新人 男子400mH	1位
	女子100m・200m	2位
	4×100mR	1位
	4×400mR	3位
(5) 体操部	県高校総体県大会(男子団体)	優勝
	県新人戦男子団体総合	優勝
(6) サッカー部	岩手県高等学校総合体育大会	3位
	全国高等学校選手権大会岩手県大会	優勝(2年連続4度目)
	県高校総体(女子)	優勝(12年連続12度目)
	全国高校総合体育大会(女子)	出場
	県選手権大会(女子)	優勝(9年連続10度目)
	高校女子選手権大会県大会(女子)	優勝(12年連続12度目)
	県新人大会(女子)	優勝(8年連続11度目)
(7) バレーボール部	第77回岩手県高等学校総合体育大会	3位
(8) バドミントン部	県高校総体(男子)	3位
	県高校総体(女子)	3位
	県新人戦(女子)	3位
	県高校選抜大会(男子)	3位
(9) ハンドボール部	岩手県高等学校秋季大会(男子)	3位
	岩手県高等学校新人大会(男子)	3位
	全日本吹奏楽コンクール岩手県大会	金賞
	東北吹奏楽コンクール	銅賞
(10) 吹奏楽部	全国マーチングバンド・バトントワリング 東北大会	金賞 ※5年連続18度目
	第53回マーチングバンド全国大会	5年連続24回目の出場
	北上市明るい選挙啓発ポスターコンクール	「優秀賞」
(11) 美術部	生徒会誌コンクール	「優秀賞」
(12) 生徒会		

令和7年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校）

2026.03.13

1. 実施時期

2月2日(月) 保護者向け依頼文書を配布、BLENDで保護者へ依頼
2月3日(火)～3月3日(火) 保護者がFormsで回答、BLENDで集計結果公表

2. 集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

設問	保護者 R6	保護者 R7	教員R6	教員 R7
1 生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている。	3.46	3.40	3.00	3.12
2 教職員は、公平・公正に生徒と接している。	3.77	3.84	3.84	3.95
3 専大北上高校の教育活動に満足している。	3.93	3.93	3.65	3.75
4 教育課程や科のコースは、生徒の興味関心・学びに向かう力の育成に適している。	4.05	4.05	3.90	3.81
5 生徒は学習方法を身につけ、学習や課題に取り組んでいる。	3.67	3.65	2.69	2.88
6 生徒の学力は向上している。	3.48	3.42	3.20	3.25
7 本校は生徒の学びを保障している。	—	3.70	—	4.00
8 進路指導において、資料や情報が行き届いている。	3.7	3.72	4.04	3.86
9 「社会的・職業的自立」に必要な力が育成されている。	—	3.66	—	3.39
10 PTA活動は円滑に行われている。	3.66	3.64	3.61	3.73
11 生徒の安全・健康に配慮している。	3.85	3.82	3.80	4.14
12 校舎・施設等は整備され、教育環境が整っている。	4.49	4.39	4.08	4.22
13 生徒会活動や学校行事が充実している。	4.13	4.12	4.22	3.97
14 いじめ問題への対応は適切である。	3.44	3.44	4.02	4.00
15 部活動は活発に行われている。	4.44	4.52	4.63	4.73
16 地域とつながる課外活動は活発である。	4.02	4.08	3.84	3.93
17 地域社会に信頼される学校である。	—	3.61	—	3.54
18 地域や中学生への広報活動が行われている。	3.74	3.66	4.04	4.05
19 保護者への情報提供は適切である。	3.94	3.91	3.92	4.05
20 ICTの活用に取り組んでいる。	3.76	3.71	4.16	4.36

回答数 保護者 509名（回答率59%） 教職員59名（回答率69%）

3. 回答内容について

今年度の学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

お忙しい中、多くの保護者の皆様にご回答いただき、心より感謝申し上げます。

この度、アンケート結果がまとまりましたので報告致します。今年度は、一部の調査項目について内容を見直したこともあり、昨年度との比較ができない部分もございますが、特に評価が十分でなかった点や、教職員との認識に差が見られた項目につきましては、その背景を丁寧に分析し、改善に向けた取り組みを進めてまいります。また、記述欄でいただいた貴重なお意見につきましても、今後の教育活動をより充実させるための手がかりとして、教職員一同、真摯に向き合っております。

これからも、生徒一人ひとりが安心して学び、自らの未来へ力強く歩んでいけるよう、教育環境の整備と指導の改善に努めてまいります。今後とも、保護者の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長 阿 部 伸

令和7年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校通信制）

2026. 4. 1

1. 実施時期

3月13日(金) 保護者向け依頼文書を配布、BLENDで保護者へ依頼
3月13日(金)～3月22日(日) 保護者がFormsで回答、BLENDで集計結果公表

2. 集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

	項 目	教員平均	保護者平均
1	生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている	3.67	3.63
2	教職員は、公平・公正に生徒と接している	4.83	4.13
3	専大北上高校の教育活動に満足している	4.00	4.13
4	通信制システムは学びに向かう力の育成に適している	3.83	4.00
5	生徒は学習方法を身につけ課題に取り組んでいる	4.33	4.13
6	生徒の学力は向上している	4.17	3.75
7	本校は生徒の学びを保障している	4.50	4.25
8	進路指導の資料・情報は行き届いている	3.33	4.00
9	生徒の安全・健康への配慮	3.67	4.00
10	校舎・施設等の教育環境	3.67	4.38
11	学習やレポートの情報提供	3.67	4.50
12	悩み・相談・いじめ防止への対応	4.33	3.88
13	保護者からの相談への対応	4.33	4.50
14	地域・中学生への広報活動	3.67	3.75
15	保護者への情報提供	3.67	4.00
16	ICT活用への取り組み	3.67	4.00

回答数 保護者8名 教職員6名

3. 回答内容について

今年度の学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。お忙しい中ご回答いただき、心より感謝申し上げます。

この度、アンケート結果がまとまりましたので報告致します。今年度は、初めての調査だったこともあり、昨年度との比較ができない部分もございますが、特に評価が十分でなかった点や、教職員との認識に差が見られた項目につきましては、その背景を丁寧に分析し、改善に向けた取り組みを進めてまいります。これからも、生徒一人ひとりが安心して学び、自らの未来へ力強く歩んでいけるよう、教育環境の整備と指導の改善に努めてまいります。今後とも、保護者の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校長 阿 部 伸

専修大学北上高等学校

1 学科名

[全日制課程]普通科、グローバルビジネス科、

メカニックエンジニアリング科(3年生のみ自動車科)

[通信制課程]普通科(通学コース・通信コース)

2 学年・学科別在校生徒数

令和7年5月1日現在

[全日制課程] 学科		入学定員	男 子	女 子	計
1 年 生	普 通 科	185	104	85	189
	グローバルビジネス科	80	38	35	73
	メカニック エンジニアリング科	35	32	0	32
	小 計	300	174	120	294
	普 通 科	185	103	86	189
	グローバルビジネス科	80	36	39	75
	メカニック エンジニアリング科	35	38	0	38
	小 計	300	177	125	302
3 年 生	普 通 科	185	100	80	180
	グローバルビジネス科	80	28	43	71
	自 動 車 科	35	27	0	27
	小 計	300	155	123	278
合 計		900	506	368	874

[通信制課程] 学科		入学定員	男 子	女 子	計
1 年 生	通学コース	20	4	2	6
	通信コース	5	3	1	4
合 計		25	7	3	10

3. 進学・就職の状況（令和8年3月31日現在の進路状況）

(1) 進学状況 215（男子 120・女子 95）

（ ）は女子内数

区分	学科	普通科	グローバル ビジネス科	自動車科	計
大 学		97 (31)	11 (4)	2 (0)	110 (35)
短期大学		5 (3)	1 (1)	0 (0)	6 (4)
専修学校		56 (33)	33 (22)	9 (0)	98 (55)
未 定		0 0	1 (1)	0 (0)	1 (1)
合 計		158 (67)	46 (28)	11 (0)	215 (95)

(2) 産業別就職状況 48（男子 32・女子 16）

（ ）は女子内数

区分	学科	普通科	グローバル ビジネス科	自動車科	計
農林漁業	県内			1	1
	県外				
建設業	県内			1	1
	県外	2			2
製造業	県内	5 (3)	20 (11)	9	34 (14)
	県外			2	2
電気ガス業	県内				
	県外				
情報通信業	県内				
	県外				
運輸郵便業	県内	1 (1)	1 (1)		2 (2)
	県外				
卸売・小売業	県内	1 (1)	2 (1)	2	5 (2)
	県外	1 (1)			1 (1)
金融保険 不動産業	県内			1	1
	県外				
宿泊・飲食業	県内				
	県外				
生活関連、 娯楽業	県内				
	県外				
専門・技術 サービス業	県内				
	県外				
医療福祉	県内	1 (1)			1 (1)
	県外	1			1
複合 サービス業	県内				
	県外				
サービス業	県内	3 (3)	1 (1)		4 (4)
	県外	2 (1)	1 (1)		3 (2)
公 務	県内	1 (1)			1 (1)
	県外	1 (1)			1 (1)
合 計	県内	12 (10)	24 (14)	14 (0)	50 (24)
	県外	7 (3)	1 (1)	2 (0)	10 (4)
	合計	19 (13)	25 (15)	16 (0)	60 (28)

令和7年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【北上福祉教育専門学校】

入学定員（90名）の充足を図り、社会の発展に貢献する実践的な専門職業人を育てる。

令和8年度入学生	保 育 科	56名（定員50名に対し	112.0%
	福祉介護科	45名（定員40名に対し	112.5%
	合 計	101名（定員90名に対し	112.2%

1 教育内容の充実について

達成度 A

ICTの有効な活用も見られ、実習等対外的な教育活動も順調に行うことができた。また、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を年2回開催し、教育の質的向上に努めることができた。

（1）ICTを活用した効果的な授業運営とともに、校務システムの構築に努める。

石巻専修大学との遠隔授業の他、平常授業でもICT活用の拡大がみられている。校務システムにおいては、基本的となる教務関係は概ね完成した。教務外及び細部について今後詰めていく。

（2）学生による授業評価を実施し、授業の質的向上に努める。

前期、後期の年2回、科目ごとに、学生アンケートによる授業評価を実施後、評価結果を集計し授業内容の質的向上に努めた。

（3）実習指導者会議を行い、実習指導者と連携した実習プログラムの開発を行う。

介護実習指導者会議は、全て対面開催した。実習プログラムを確認し、実習指導について共通理解を深めた。保育（教育）実習は、書面におけるプログラム確認となった。

（4）2年間の実習実践内容を総括し「実習実践研究収録」を作成する。

保育科「実習報告集」、福祉介護科「介護事例研究発表会報告集」を作成した。

（5）介護福祉士国家試験合格率向上に向け、対策講座を推進する。

国家試験対策講座は時間割に位置づけ、模擬試験を増やすなど強化した。本校合格率は72.2%（全国平均70.1%）

（6）学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育の質的向上に努める。

学校関係者評価委員会を2回開催し、専任講師・職員への自己評価と、非常勤講師、保護者、学生、同窓生、実習施設へのアンケート調査による学校評価の内容を検討し、実施後はアンケート結果の振り返りを行った。
教育課程編成委員会を科毎に年2回開催し、現在のカリキュラムの確認と今年度の振り返り、今後の方向性について検討した。

（7）丁寧な就職指導とキャリア教育の充実により就職率100%を維持する。

両科とも、専門職への就職（進学）希望者全員が就職（進学）した。（100%）

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 A

研修会等は、現地・オンライン開催の併用で順調に参加出来た。また、研究紀要第8号、9号を発行することができた。

（1）学内での教員研修会を開催し、一堂で教科指導、学生指導、専門士養成の研修を行う。

専任・非常勤講師一堂を会して開催することが出来た。資料を基に全体研修、科別研修を行った。また、専任講師を対象に、長期休み中に学内研修会を1回行った。

(2) 広く社会に貢献できる人材育成のため、研究会・研修会・学会等へ計画的に参加する。

保育科	全国幼稚園教員養成機関連合会春季研修会	3名参加
	全国幼稚園教員養成機関連合会秋季研修会	2名参加
福祉介護科	日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会(オンライン)	1名参加
	日本介護福祉士養成施設協会東北ブロック教員研修会(オンライン)	4名参加
その他	全国専修学校各種学校総連合会東北ブロック研修会(秋田市)	2名参加

(3) 授業力の向上に向け、公開授業を実施する。

公開授業週間を前期後期各一回ずつ設定し、専任講師(一部非常勤講師)の授業を公開した。授業内容・教育方法の感想や気付いた点について担当教員に伝えることで、授業実践の向上に繋がった。

(4) 実践及び研究の発表の場として、研究紀要の隔年発行を基本に取り組む。

令和7年10月に研究紀要第8号、令和8年3月に第9号を発行し、国立国会図書館、全国幼稚園教員養成機関連合会や関係大学に配布した。

(5) 人事評価制度を活用し、教員個々の自己啓発の促進を図る。

人事評価制度での、キャリア段階における着眼点の確認と振り返り、今年度の目標の設定や自己評価、副校長及び校長の面談を通し教員個々の自己啓発促進に繋がった。

3 連携強化について(系列校、地域、関係機関)

達成度 B

こども園とは、実習や実習以外の行事でも楽しく行き来し交流できた。石巻専修大学への編入学者は2名、1年生全員で見学することが出来た。地域のイベント参加も増え、夢のキラキラ音楽会・介護事例研究発表会を成功に収めることが出来た。北上高校からの入学者は6名と昨年度を大きく下回った。

(1) 北上高校との高専連絡会議を設け、本校への進学20名を目指す。

高専連絡会議は2回行った。その他新任教員研修、保育・福祉系ガイダンス2回、専北塾1回、高校学園祭ブース対応、保護者向けガイダンスを実施した。また、福祉・保育・幼児教育専攻の授業に、本校福祉介護科教員2名が毎週補助に入った。本校へは6名(保育5、福祉1)が入学、うち同専攻生徒は半数計3名であった。

(2) 同敷地内のこども園で、学生が日常的に見学・参加実習する等多くの交流を目指す。

1年生の園見学、プレ実習、本実習の他、ハロウィンイベント、夕涼み会、誕生会、クリスマス会等で交流した。

(3) 保育科指導大学の石巻専修大学とより連携を深めていく。

理工学部教授依田清胤先生には「自然科学概論」を、人間学部教授高橋寛人先生、新福悦郎先生には「教育制度論」及び教育課程編成委員をお引き受け頂きご指導頂いた。7年度の編入学は2名であった。1年生全員で見学し、人間学部特任教授横江信一先生の講義や本校卒業生のお話、説明会を実施した。

(4) まちなかキャンパスとして、北上市やSVきたかみと連携を強化して保育・介護の啓蒙及び人材育成を行う(地域のイベント・ボランティアへの積極的参加、出前公開講座開催等)。

①地域のイベント(北上みちのく芸能まつり等)

北上みちのく芸能まつり市民パレードに全員参加し、最優秀賞を受賞した。

②各種ボランティア活動(県特別支援学校スポーツ交流会、北上ふれあいスポーツ大会等)

県特別支援学校スポーツ交流会には福祉介護科全員が、北上ふれあいスポーツ大会には福祉介護科1年生が参加した。

保育科においては、子育て支援団体のイベントに10名が参加した。

- ③認知症支援～「チームオレンジすまいる」による傾聴活動ボランティア（福祉介護科2年生）を行い、「きたかみまちづくりマッチングフェア」で発表した。
- ④北上市出前講座の登録と実施（中高生・一般向け）
「北上市生涯学習まちづくり出前講座」に2講座登録したが、依頼はなかった。
- ⑤学園祭の開催
学園祭は、一般公開して行い、来場者は432名であった。
- ⑥北上市介護テクノロジー体験会に福祉介護科が全員で参加した。
- ⑦黒沢尻8区ふれあいデイサービスでニュースポーツでの交流を行った。
- ⑧黒沢尻4区の敬老会に参加し、踊りとゲームを行った。
- ⑨放課後等デイサービスの児童とニュースポーツ交流会を本校で2回実施し、福祉介護科1, 2年生全員が参加した。
- ⑩認知症サポーターステップアップ研修（福祉介護科2年生）、認知症サポーター養成講座（福祉介護科1年生）を開催した。
- ⑪障害者支援施設萩の江の利用者とニュースポーツ交流を行った。
- （5）実習施設等と連携し、行事への積極的参加や協力を行う。
実習施設の行事（幼稚園・保育園・障害者施設・介護老人福祉施設等）への要請が少しずつ増え、参加することができた。
- （6）実習先の園児や先生方、保護者を招待して保育科「夢のキラキラ音楽会」を開催する。
11月15日、さくらホールで開催され、専大北上高校生、北上幼稚園3～5歳児他13園491名、保護者128名、合計619名に見て頂いた。
- （7）実習先の先生方、保護者、卒業生を招待して、福祉介護科「介護事例研究発表会」を開催する。
12月17日、さくらホールで開催され、福祉介護科学学生、保護者、北上市、実習指導者、卒業生、教員を含め合計75名が参加した。教育課程編成委員の先生に講評を頂き、内容の濃い発表会となった。

4 広報活動の強化について

達成度 A

教職員が一丸となり、高校訪問、進路ガイダンス等の広報活動を行った。ホームページも定期更新し、SNS発信にも力を入れ取り組んだ。また、外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を行い、両科とも定員に達することができた。

- （1）WEB広報（HP、SNS等）と校務システムを連動させながら、戦略の強化を図る。
インスタ、ホームページの更新を定期的に行った。
- （2）報道機関へ情報提供し、メディアの積極的活用を図る。
入学式、卒業式、オープンキャンパス、夢のキラキラ音楽会、介護事例研究発表会等、全ての学校行事の取材案内を市内11ヶ所の報道機関に送付した。
- （3）業者主催進学説明会、相談会へ積極的に参加する。
業者主催の進学説明会に105回参加した（昨年度123回）。遠方等により36カ所は参加できなかったが、外部委託により19カ所参加することができた。
- （4）同窓会、後援会と連携し、広報活動の展開を図る。
同窓会総会を本校で実施し、協力依頼をした。HP等でも呼びかけ「同窓生在校生推薦受験生の受験料免除制度」に59名の推薦があった。（昨年度は22名）また、後援会役員会・総会・研修会を開催し、本校PRの協力依頼を行った。
- （5）学生募集要項及び学校案内等の充実、作成を計画的に行い、早期完成を目指す。
学校案内は、保護者や高校生が読みやすいデザインに変更し3月下旬に完成した。
また、留学生用のパンフレットも初めて作成した。（5月完成）

(6) 高校教員向けに学校説明会を開催し、高校教員への周知を図る。

6月23日に開催。8校12名が参加し、説明後在校生と懇談した。

(7) 全教員による県内外の高校への訪問(年3回)、出前講座を実施する。

岩手県、秋田県、宮城県の高校を1～4回(延べ221校)教員全員で訪問した。

出前講座は、花北青雲、平舘、宮古定時制、花巻農業、岩谷堂、北上翔南高校で実施した。

(8) オープンキャンパス参加への積極的PR、学校見学の随時開催を行う。

①オープンキャンパスは年15回開催、総参加者138名(昨年153名)ニーズに合わせて土曜日以外や午後も追加実施した。

②学校見学は、岩谷堂高校40名、杜陵奥州校定時制21名、花北青雲高校28名。

(9) ハローワークと連携し、社会人への募集活動の推進を図る。

委託訓練事業(保育士養成コース、介護福祉士養成コース)へ応募し、ハローワークと共同で説明会を実施した(北上1回)。

ハローワーク(奥州市、北上市、花巻市、一関市、盛岡市)を訪問し、学校説明し募集活動を行った。

(10) 外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を図る。

留学生学業奨学生創設、受入用アパート契約、家財道具やアルバイト先確保、支援員配置等の受入環境整備、介護福祉士修学資金制度の連帯保証人契約及び保証制度の利用を開始した。

留学フェア(宮城:会場型5回、学校別3回)に参加した。

岩手、秋田、宮城の日本語学校14カ所を訪問した。

留学生対象の見学会を5回開催した。

(11) 学生募集強化委員会を月2回開催し、スピード感をもって学生募集活動を行う。

毎月1回以上、学生募集強化委員会(学校長、科長、副科長、入試広報部長)を開催し、広報活動の企画・運営・評価を実施し、学生募集の強化を図った。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B

高圧受変電設備(キュービクル)の老朽化により、設備更新を行った。校務システムの構築も教務関係は概ね順調に進み、安心・安全な環境整備を進めることが出来た。校舎外壁については、次年度以降の持ち越しとなった。

(1) 校舎の老朽化、授業のICT化に伴う環境整備を計画的に実施する(校舎外壁、校務システム構築)。

令和7年度 学校評価（学校関係者）アンケート結果（専門学校）

評価（十分に満たしている：3、概ね満たしている：2、改善が必要である：1）

評価項目			評価平均					
			学生	学生保護者	実習施設	同窓会役員	非常勤講師	全体
			56名	42名	26名	4名	10名	136名
1	教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	2.9	2.7	2.7	2.8	2.9	2.8
2	学校運営	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.9	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8
3	教育活動	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.9	2.7	2.7	3.0	2.8	2.8
4	教育活動	関係施設等と連携による実践的な職業教育（実習等）が行われているか	3.0	2.8	2.7	2.8	2.9	2.9
5	学修成果	就職率の向上が図られているか	2.9	2.7	2.6	2.8	2.9	2.8
6	学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	2.9	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8
7	学生支援	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8	2.7	2.6	2.5	2.9	2.7
8	学生支援	保護者と適切に連携しているか	2.8	2.5	2.3	2.5	2.9	2.6
9	学生支援	卒業生への支援体制はあるか	2.8	2.4	2.5	2.8	2.9	2.7
10	教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できよう整備されているか	2.8	2.5	2.6	3.0	2.2	2.6
11	学生の受け入れ募集	学納金は妥当なものとなっているか	2.8	2.6	2.6	2.8	2.5	2.7
12	法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	2.9	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8
13	社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.9	2.7	2.7	3.0	2.6	2.8
14	社会貢献・地域貢献	学生のボランティア活動を奨励しているか	2.9	2.7	2.6	3.0	2.6	2.8
15	社会貢献・地域貢献	公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.9	2.6	2.6	2.8	2.8	2.7

1 調査時期

令和7年12月12日（金）～令和8年1月16日（金）

2 調査対象

学生（2年生）、学生（2年生）の保護者（職業訓練生、留学生を除く）、実習施設等（幼稚園、保育所、高齢者施設等）、同窓会役員、非常勤講師

3 依頼方法

アンケート調査用紙を手渡しもしくは郵送により依頼し、回収した。

保護者については、学生を通して担任が依頼、回収した。

4 回収率

全体	84.0%	（依頼数 162 回収数 136）
学生	96.4%	（依頼数 56 回収数 54）
学生の保護者	87.5%	（依頼数 48 回収数 42）
実習施設等	86.7%	（依頼数 30 回収数 26）
同窓会役員	30.8%	（依頼数 13 回収数 4）
非常勤講師	66.7%	（依頼数 15 回収数 10）

5 有効回答数

136

専修大学北上福祉教育専門学校

1 学科名

保育科・福祉介護科

2 学年・学科別在学生数

(令和7年5月1日現在)

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1年	保 育 科	50	5	47	52
	福 祉 介 護 科	40	3	14	17
	小 計	90	8	61	69
2年	保 育 科	50	7	31	38
	福 祉 介 護 科	40	10	9	19
	小 計	90	17	40	57
	合 計	180	25	101	126

3. 就職・進学状況

(1) 就職者数・進学者数

(令和8年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
就 職 決 定 者	35	18	53
就 職 未 定 者	0	0	0
進 学 決 定 者	2	0	2
合 計	37	18	55

(2) 就職先の内訳

(令和8年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
幼 稚 園	1		1
保 育 園	11		11
認定こども園	19		19
特別養護老人ホーム		8	8
介護老人保健施設		6	6
福祉施設他	4	4	8
その他			
合 計	35	18	53

4. 入学試験状況

(令和8年3月31日現在)

学 科	志 願 者 数			入学手続者数		
	男 子	女 子	計	男 子	女 子	計
保 育 科	9	48	57	9	47	56
福祉介護科	10	41	51	10	35	45
合 計	19	89	108	19	82	101

令和7年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【認定こども園専修大学北上幼稚園】

教育目標（げんきなこども おもいやりのあるこども みんなのしくあそべるようちえん）を具現化し、達成していく。

1 教育内容の充実について

達成度 A

- 子ども達の遊びの興味・関心・気づきに耳を傾け、子ども達と一緒に考えたり、援助したりしてきた。子どもの更なる学びに繋がるように様々な活動を取り上げ、子どもの興味・関心が思考力・判断力・表現力に広がるように取り組むことができた。
- 夏季・冬季長期休業中に ECEQ の研修を行い、園の強み・弱みや改善点などを話し合うことができた。また、東北大会後の話し合いは、そこから更に一步踏み出して今後やるべきことが明らかになった。全員そろっての研修は難しかったが、その中でも ECEQ の step 1～5 のカリキュラムに応じて園内研修の機会を設けて取り組めたことは、保育教諭の保育内容の充実・拡大に繋がったと考える。

(1) 日々の遊びから、子どもたちの気づきや発見を活動に取り入れ、更なる「主体的な」「対話的で」「深い学び」に繋げる。(アクティブラーニング)

日々の遊びの発展を目的とし、砂遊びの充実を図るため、桶を購入し水遊びを楽しむことができた。砂場で水を使うことでダム作りやコーヒーを作ってのレストランごっこなどの遊びに発展した。桶を使つての遊びでは、どうやったら水が漏れないように流れるかを一生懸命考え遊びの中から学びに繋がっていたと思う。ただ、環境設定の取り掛かりが遅かったので、令和8年度は早めに環境設定を行い、ますます遊びが盛り上がるようにしていく。

(2) 支援を要する園児の姿を的確に捉えて、保育や援助の充実を図る。

支援を要する園児の姿を担当からの困り感や相談をしっかりと受け止めながら、保護者にも丁寧に対応してきた。「子どもが集団生活で困らないように…」という考え方で、お家の方にも家庭と集団の様子の違いを理解していただくために、実際に園に出向いてもらい我が子の姿を見ていただくことで理解していただけるようにすることができた。そこから関係機関につながっていくと考えられるので、各クラスの支援状況を見て継続していきたい。

(3) 毎日の「反省会」による保育の省察を行い、ヒヤリハット報告、検討を行う。

反省会では、クラスのことなど報告し合い情報の共有をしている。また、反省会後にクラス担任が集まりクラスの遊びなどを話し合うことができた。

(4) 園内研修のテーマ（ECEQ公開保育 東北大会）は「子ども理解」とし、実践発表や保育観察を実施する。また、1号認定園児長期休業中の研修会をもち、教師間（教育部と保育部）のコミュニケーションを図り、資質・能力を高める。

令和7年度の園内研修のテーマを基に、毎日の反省会後の話し合いを充実させ、その後の保育に生かす工夫をした。

(5) 学校評価を実施し、結果を教職員で共有し、園経営の改善を図る。

学校評価については毎年行い、保護者の考えを受け止めながら改善したり、回答したり

している。以前の保護者との違い（変化）を受け止めて、自分達としても考え方を改善していかなければいけない部分もあるのではと思う。

（６）私立幼稚園連合会のECEQの研究と２０２５年度の東北大会の準備を進める。

東北大会に向け、運営委員や研究部・教務部を中心に大会要項・週日案・保育など改善し、取り組んだことで、大会の成功に繋がった。

２ 教員の資質・能力向上について

達成度 A

- 公開保育（ECEQ）を実施することで、様々な他園の先生方からもご意見を伺うことができた。日々の保育実践してきたものを見える化できたのは、今後活かされていくもの考える。
- 園内研修や様々な研修会に参加することで、保育教諭の指導力向上に努めてきた。どの職員も前向きに取り組んでいる。
- コンプライアンス研修を毎月の職員会議で行うことで職員の資質能力を上げることや保育教諭が園児に対する人権尊重の考え方を振り返ることができた。
- 人事評価を行うことで、各々が振り返り、職務に専念し、職員の資質向上に繋がれる成果を得た。

（１）専修大学の建学の精神をもとに、感謝と社会に貢献する心を持つ教員を養成する。

折に触れ話をし、職員に伝えてきている。今後も継続した指導をしていきたい。

（２）日頃の教育実践や研究を通して、「知識や技能」を身に付け、「思考力・判断力・表現力」を持つ教員の育成を図る。また、常に研究と修養に努め、「学びに向かう力、人間性」を身につけようとする教員を養成する。

園内研修や様々な研修会に参加することで、保育教諭の実践力向上に努めてきた。どの職員も前向きに取り組んでいる。

（３）適材適所を見極め職務整理と組織作りに務め、職務に専念し効率的・迅速的に行う習慣をつける。

適材適所に沿った組織作りとなり、職務に専念できるよう取り組むことができた。また、仕事の割り振りを整理して、全員が定時退勤できるようにする。

（４）本園事務部と専門学校事務部及び学園事務局の連携強化を図る。

学園内の事務部同士の連携に努力した。

（５）園外研修へ積極的に参加する。

園内研修や様々な研修会に参加することで、保育教諭の指導力向上に努めてきた。どの職員も前向きに取り組んでいる。

（６）教職員の自己評価を実施し、自己評価の結果によりPDCAサイクルで改善を図る。

本園としての伝統を生かしながら、改善していかなければならないことを話し合う機会となった。

（７）学年のミーティング・職員会議による職員のチームワークを醸成する。さらに、職員間の連携強化を図り、互いに信頼し合える職場づくりを目指す。

学年間での話し合い・職員会議等を繰り返し、お互いの理解を深め職員間の連携強化に務めた。

(8) 人事評価により、職員の資質及び能力の向上を図るとともに園の教育力を高める。

人事評価を行うことで各々が振り返り、気を付けながら行動し職員の資質向上に繋がれるようになったと思う。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

○KTSの学生の指導については、KTSの実習担当と園の実習担当がしっかりと打ち合わせを行っていくことで、連携をとりながら各クラス担任にも伝えていくことができた。2年生には、ボランティアで10月～1月の誕生会の出し物を行ってもらったり、夕涼み会のお手伝いにも参加してもらったりと連携することができた。

○令和7年度は、黒沢尻8区・9区の方々との交流の回数を増やして行った。地域の方に園の様子を知っていただくことで、地域の方と園とのつながりがより増えていくことを感じた。地域の方とのつながりは、園児にとって後々に卒園しても見守っていただけることに繋がると考える。

(1) 専門学校の実習指導は職員一人一人が指導教官としての意識を持ち学生に寄り添った指導にあたる。

教育部担任それぞれが責任を持って丁寧な指導した。

(2) 高校・専門学校等との連携による各種教室の実施

①高校の先生方や生徒のご協力により楽しみながら興味を持って参加していた。（サッカー・調理）

②KTSの先生による運動教室は子どもの年齢にあった内容で指導していただき楽しく参加することができた。

③高校生による園見学やふれあいを行うことで、将来の保育に携わる人材になりうるよう、幼児教育に興味を持ってもらえたと感じた。

(3) 小学校、保育園、老人施設（遊戯を披露）との交流事業を推進する。

幼保小会議で幼小接続事業「黒沢尻西小学校との架け橋カリキュラム」において、各園の方々に自園の資料を作り提案した。

(4) 地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館、医療関係他）を訪問し、日頃の感謝を表す。

地域の職場訪問については、警察署については訪問し感謝の気持ちを表すことができた。熊の出没により子ども達との訪問ができなかった所もあり残念であった。

(5) 中学生の体験学習の受け入れ、高校生との交流事業を推進する。

中学生については、申し込みがあった生徒さんは受け入れ、将来の職業の選択に向けて機会を作ることができた。高校生との交流事業も積極的に行うことができた。

(6) 北上市復職プログラム研修の受け入れを行う。

北上市の復職プログラム研修については申し込みがなかった。

(7) 黒沢尻8、9区の住民の方々とコミュニケーションを図り、地域活性化の一助になることを目指す。

黒沢尻8区・9区の住民とのコミュニケーションについては、5歳児がボッチャを教えていただき、4歳児が住民の方々と一緒に給食を食べたり、運動会にお招きしたりして交流を図り喜んでいただいた。子ども達も地域の方々との交流を楽しんでいた。

小学校や老人施設等の交流事業では入所者さんに喜んでいただき子ども達にとっても良い経験となった。

4 広報活動の強化について

達成度 B

- 未就園児教室や園庭開放を行い、子育てや就園についての相談など受け、話をしながら子育て支援を行うことができた。
- ホームページやブログにて、子ども達の様子を発信し、園生活や行事の紹介など昨年度よりさらに回数を増やして行うことができた。また、園行事など報道機関に依頼し取材を受け、広報活動に活かすことができた。

- (1) 未就園児への40回の園庭開放を行い、育児や就園への相談にのる等子育て支援の充実を図る。

定員を確保するために、未就園児への40回の園庭開放を行った。今後、どのような取り組みをしていくことが必要なのか長期的な展望で考えていく。

- (2) ホームページでの情報発信とブログでの園生活の様子、行事等の紹介を積極的に報道機関に依頼し、広報活動を行う。

園の様子をホームページに昨年度よりも多く更新することができた。回数を多くすることで、園の様子を見ていただけるいい機会と捉えているため、令和8年度も様々な様子を発信していきたいと考える。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B

- 毎月、職員が安全点検を行い、修理が必要な所は、修理箇所をまとめてから修繕していくようにした。子ども達には、修繕個所に立ち寄らないよう生活指導部が指導した。
- バス乗車についてはチェック表も使用し、「乗り忘れ」「降ろし忘れ」の無いように十分に気をつけることができた。来年度も引き続き気を付けて取り組んでいきたい。
- 引き渡し訓練は、9月に実施することができた。今後は実際に行われることを想定した方法を考えて実施しなければならない。

- (1) 毎月職員が安全点検を行い、園内外の安全を図る。また、毎日、バス運行のチェック体制を整える。

欠席連絡がない場合など、時間を決めて保護者に連絡するように徹底する。

- (2) 引き渡し訓練は、実際に行われることを想定した方法を考えて実施する。

7年度は、9月に引き渡し訓練が行われたが、新たな想定工夫が足りなかった。

6 今後のこども園について

達成度 B

○子どもの心身が健やかに成長し、自分らしく生き生きと過ごせるように環境を整え支えて行くことができる保育教諭でありたいと職員一人ひとりが願い、子どものウェルビーイングを高めることを第一に考え行動することができた。

○0歳児を受け入れて3年目。年間指導計画をもとに保育しているが、日々の反省をもとに改善を図りながらさらに安全な保育に務めてきた。今後も、子ども一人ひとりに寄り添いながら保育に取り組んでいきたい。

○昨年の東北大会に向けた保育の取り組みをこれからも継続し、日々、PDCAサイクルで反省を繰り返し、取り組んでいくことが大切と再確認した。

- (1) 子どもの権利と尊厳を守り、「安全と挑戦の循環」を通して、子どものウェルビーイングを高める。

3学期には怪我をする子もいたがすぐに保護者へ連絡をして病院の受診をお願いした。大きなけがや事故がなかったのは良かった。

- (2) 令和5年度より0歳児を受け入れて2年が経過するが、0歳の保育の体制の確立を図る。今後も一人ひとりに寄り添う教育・保育に努める。

0歳の保育の確立にはもう少し時間が必要である。目標に掲げ保育を行っていきたい。

- (3) 今後、本園が保護者に選ばれる園であり続けるように「質の高い幼児教育」を実践していく。定員の充足を目指し、より質の高い幼児教育の実現にさらに研究を深めていく。

令和7年度 学校評価に関わる保護者アンケート（こども園）

在籍数188名 提出数172名 提出率91.5%

1…そう思う 2…おおむねそう思う 3…どちらかといえばそう思わない 4…そう思わない 5…無回答

項 目	内 容	1	2	3	4	5
教育・保育方針について	1 園は、教育・保育目標や運営方針を分かりやすく伝えている	75.0%	23.8%	1.2%	0.0%	0.0%
	2 園は、教育・保育目標や運営方針を子どもたちの育ちに活かしている	76.1%	23.3%	0.6%	0.0%	0.0%
教育・保育内容等について	3 園は、子どもの発達段階や興味・関心に応じた保育を行っている	86.0%	12.8%	0.6%	0.0%	0.6%
	4 園は、外遊びやうんどう教室などを通して楽しく体力作りをしている	82.5%	16.3%	1.2%	0.0%	0.0%
	5 園は、園生活を通して、してはいけないことやルールを守る態度、ふわふわ・ちくちくことばをわかるように指導している	81.4%	17.4%	0.6%	0.0%	0.6%
	6 様々な行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	7 園は、園全体で子どもの保育に取り組んでいる	84.9%	15.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	8 子どもは、園での生活を楽しく喜んで通っている	82.0%	17.4%	0.6%	0.0%	0.0%
	9 保育者は一人一人の子どもを理解し、個性に応じた援助をしようと努めている	77.9%	20.9%	0.6%	0.0%	0.6%
	10 保育者は、すすんであいさつを心がけ、子どもに温かい言葉遣いで接している	89.0%	11.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	11 保育者は、子どもの目線に立って分かるように話し、子どもの意欲や自信を育てるように声かけや支援に努めている	80.2%	19.2%	0.0%	0.0%	0.6%
	12 園での子どもの様子は、行事、参観日、園・学年だよりなどを通して知ることができる	76.7%	19.8%	3.5%	0.0%	0.0%
保護者との連携について	13 園は、保護者の要望などに対して適切に対応している	77.9%	21.5%	0.6%	0.0%	0.0%
	14 園は、子どもの様子や連絡事項、怪我や病気等への対応を適切に行っている	82.0%	15.7%	2.3%	0.0%	0.0%
安全・環境について	15 園は、子どもの安全で心地よく過ごすための配慮（園内や園庭の安全点検・事故防止・避難訓練等）をし、危機管理や安全対策に努めている	86.6%	13.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	16 園は、施設設備（保育室・園庭等）や教育環境の充実に努めている	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	17 園は、清掃や整理整頓が行き届いている	91.9%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	18 園は、個人情報の取り扱いに十分注意している	84.8%	14.0%	0.0%	0.0%	1.2%
保護者について	19 保護者は、園の教育・保育目標や運営方針に関心を持っている	69.7%	29.1%	1.2%	0.0%	0.0%
	20 家庭では、早寝、早起き、朝ごはんなど基本的な生活習慣に取り組んでいる	70.3%	26.8%	2.9%	0.0%	0.0%
	21 家庭では、おはよう、ただいま、おやすみ、ありがとう等のあいさつを励行している	86.6%	11.6%	1.8%	0.0%	0.0%
	22 家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をして、言葉に気をつけている	48.8%	43.6%	7.0%	0.6%	0.0%
	23 保護者は、園の行事など積極的に参加している	81.4%	18.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	24 保護者は、子育てについて身近な人に相談している	68.6%	29.7%	1.7%	0.0%	0.0%

認定こども園専修大学北上幼稚園

1 年齢別

0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2 年齢別在園児数

(令和7年5月1日現在)

年 齢	入園定員	男 子	女 子	計
0 歳 児	3	1	2	3
1 歳 児	15	6	10	16
2 歳 児	18	9	9	18
3 歳 児	52	25	23	48
4 歳 児	52	22	27	49
5 歳 児	52	21	31	52
合 計	192	84	102	186

3. 入園志願状況

(令和8年3月31日現在)

年 齢	男 子	女 子	計
0 歳 児	2	1	3
1 歳 児	4	8	12
2 歳 児	2	2	4
3 歳 児	12	9	21
4 歳 児	0	0	0
5 歳 児	0	0	0
合 計	20	20	40

令和7年度 決算の概要

「資金収支計算書」

(1) 収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比1.3%増の1,258,172,057円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では予算比15,589,057円増の1,762,387,165円となっている。

学生生徒等納付金収入

予算額 535,910,000 円 決算額 539,894,200 円 差異 3,984,200 円 増
納付金完納者数は高等学校 858名、専門学校 124名、こども園 187名。

手数料収入

予算額 11,630,000 円 決算額 10,586,800 円 差異 1,043,200 円 減
志願者数は、高等学校 全日制711名、通信制14名、専門学校 46名（同窓生推薦受験等の受験料免除者は含まず）

寄付金収入

予算額 6,220,000 円 決算額 11,182,152 円 差異 4,962,152 円 増
高等学校部活動の全国大会出場に伴う寄付金の増による。

補助金収入

予算額 625,211,000 円 決算額 646,716,199 円 差異 21,505,199 円 増
補正予算後の内示による高等学校補助金等の増による。

付随事業・収益事業収入

予算額 30,900,000 円 決算額 37,113,581 円 差異 6,213,581 円 増
こども園一時預かり事業収入の単価増等による。

受取利息・配当金収入

予算額 234,000 円 決算額 2,542,814 円 差異 2,308,814 円 増
預金利息等による。

雑収入

予算額 15,845,000 円 決算額 22,624,808 円 差異 6,779,808 円 増
補正予算後の依願退職者による退職交付金の増。

前受金収入

予算額 49,880,000 円 決算額 57,265,000 円 差異 7,385,000 円 増
令和8年度入学予定者の入学(園)一時金と納付金、学生寮の令和8年度分寮費です。

(2) 支出の部

支出の部では、翌年度繰越支払資金を除いた当年度支出合計が、予算比32,022,005円減の1,299,580,995円となっている。

人件費支出

予算額 806,802,000 円 決算額 794,536,677 円 差異 12,265,323 円 減
教員の休職、退職等による本務教員給与支出の減による。

教育管理経費支出

予算額 284,720,000 円 決算額 261,611,457 円 差異 23,108,543 円 減
経費圧縮による減。

借入金等利息支出

予算額 12,800,000 円 決算額 12,843,191 円 差異 43,191 円 増
補正予算後に変動金利の金利上昇のため。

借入金等返済支出

予算額 97,326,000 円 決算額 97,326,000 円 差異 0 円
高等学校校舎借入に伴う返済による。

施設関係支出

予算額 12,800,000 円 決算額 12,769,451 円 差異 30,549 円 減
専門学校キュービクル更新工事による。

設備関係支出

予算額 10,950,000 円 決算額 11,531,308 円 差異 581,308 円 増
和賀川グラウンドLED照明工事等による。

資産運用支出

予算額 110,000,000 円 決算額 110,000,000 円 差異 0 円
高等学校借入返済金準備引当特定資産、施設設備拡充引当特定預金、法人基金準備資産繰入支出による。

その他の支出

予算額 25,944,000 円 決算額 25,907,743 円 差異 36,257 円 減
前期末未払金支出による。

「事業活動収支計算書」

前記の資金収支計算書と共通の科目があるので、事業活動収支特有のものについて説明。

1. 教育活動収支

収入の部では、予算比3.4%増の 1,195,583,129円となり、支出の部は、予算比2.5% 減の 1,293,823,612円となった。教育活動収支差額は、予算比 42.8% 増の△98,240,483円となった。

(1) 事業活動収入の部

寄付金

予算額 4,013,000 円 決算額 7,930,547 円 差異 3,917,547 円 増
施設設備寄付金及び施設設備の現物寄付を除いた特別寄付金による。

経常費等補助金

予算額 556,291,000 円 決算額 577,320,872 円 差異 21,029,872 円 増
施設設備補助金以外の補助金となる。

付随事業収入

予算額 30,900,000 円 決算額 37,225,902 円 差異 6,325,902 円 増
高等学校自動車整備実習工場の棚卸品等が含まれる。

(2) 事業活動支出の部

教育管理経費

予算額 519,600,000 円 決算額 498,031,016 円 差異 21,568,984 円 減
減価償却額 235,722,211円が含まれる。

2. 教育活動外収支

収入の部では、予算比 920.2% 増の 2,542,814円となり、支出の部は、予算比 0.3% 増の 12,843,191円となった。

教育活動外収支差額は、予算比 18.0% 減の △10,300,377円となった。

経常収支差額では、予算比 41.1% 増の △108,540,860円となった。

3. 特別収支

収入の部では、予算比 5.1% 増の 74,876,046円となり、支出の部は、49,672,318円となった。

特別収支差額は、予算比 64.6% 減の 25,203,728円となった。

(1) 事業活動収入の部

その他の特別収入

予算額 71,226,000 円 決算額 74,876,046 円 差異 3,650,046 円 増
施設設備寄付金及び現物寄付及び施設整備補助金による。

(2) 事業活動支出の部

資産処分差額

予算額 0 円 決算額 342,028 円 差異 342,028 円 増
耐用年数の経過した設備・施設処分差額による。

その他の特別支出

予算額 0 円 決算額 49,330,290 円 差異 49,330,290 円 増
賞与引当金特別繰入額による。

「貸借対照表」

貸借対照表は、令和8年3月31日現在の資産・負債・基本金等の状況を前年度末と対比して表示している。

この表は、資産の部・負債の部・純資産の部・負債及び純資産の部からなり、増減の△は減を示

している。

資産の部

本年度末金額 5,213,408,663 円 前年度末金額 5,331,485,580 円 差異 118,076,917 円 減
前年度末に対し 2.2%の減。

資産には固定資産と流動資産があり、

固定資産は

本年度末金額 4,662,857,731 円 前年度末金額 4,763,556,520 円 差異 100,698,789 円 減
前年度末に対し 2.1%の減。

流動資産は

本年度末金額 550,550,932 円 前年度末金額 567,929,060 円 差異 17,378,128 円 減
前年度末に対し3.1%の減。

負債の部合計

本年度末金額 1,244,754,267 円 前年度末金額 1,279,494,052 円 差異 34,739,785 円 減
前年度末に対し2.7%の減。

固定負債は

本年度末金額 961,904,020 円 前年度末金額 1,065,170,480 円 差異 103,266,460 円 減
前年度末に対し9.7%の減。

流動負債

本年度末金額 282,850,247 円 前年度末金額 214,323,572 円 差異 68,526,675 円 増
前年度末に対し32.0%の増。

純資産の部合計

本年度末金額 3,968,654,396 円 前年度末金額 4,051,991,528 円 差異 83,337,132 円 減
前年度末に対し 2.1%の減。

基本金

本年度末金額 6,143,501,185 円 前年度末金額 6,071,378,619 円 差異 72,122,566 円 増
前年度末に対し1.2%の増。

繰越収支差額

本年度末金額 △2,174,846,789 円 前年度末金額 △2,019,387,091 円 差異 155,459,698 円 減
前年度末に対し7.7%の減。

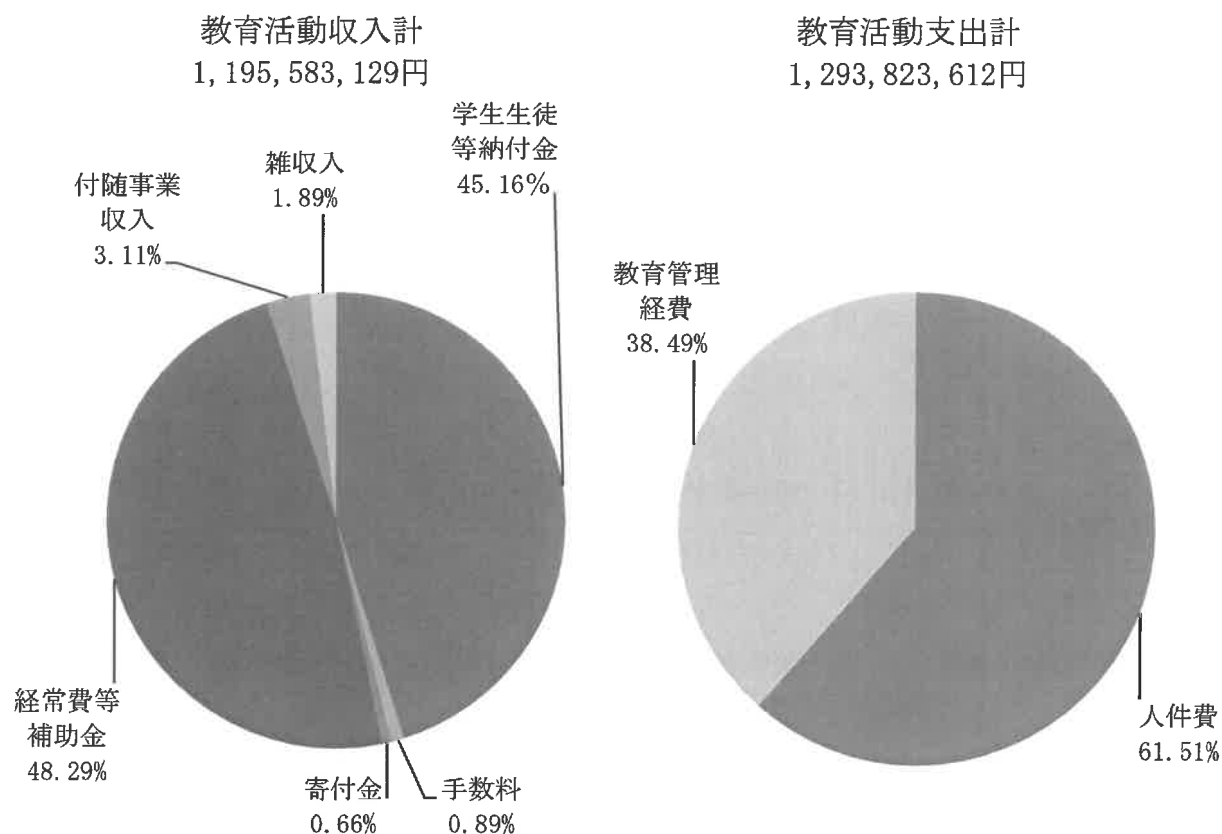
負債及び純資産の部合計

本年度末金額 5,213,408,663 円 前年度末金額 5,331,485,580 円 差異 118,076,917 円 減
前年度末に対し 2.2%の減。

以 上

(表 1)

令和 7 年度 事業活動収支科目別構成グラフ



(表 2)

主 要 財 務 比 率

比 率	算 式 (× 100)	令和 5 年度 (決 算)	令和 6 年度 (決 算)	令和 7 年度 (決 算)
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	66.25% (63.1%)	64.41% (62.8%)	66.42%
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	141.57% (119.0%)	136.34% (126.7%)	147.40%
教育管理経費比率	$\frac{\text{教 育 管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	62.60% (30.3%)	53.86% (30.8%)	41.57%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-12.54% (1.9%)	-9.06% (1.2%)	-6.55%

※ 経常収入は、教育活動収入計と教育活動外収入の合計

※ () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による高等学校部門平均値を示す。

事業報告書にかかる附属明細書

令和 8 年 5 月 1 5 日

該当する事項はありません。

以上

